平成30年度豊岡市商工会経営発達支援計画評価委員会

経営発達支援計画評価委員会　開催状況

豊岡市商工会では平成30年度の経営発達支援計画評価委員会を開催し、実施した事業実績について評価をいただきました。

評価委員会からの意見は次のとおりです。

開 催 日　平成３１年３月４日(月)　１４：００～１５：００

開催場所　豊岡市商工会館

出 席 者　外部委員（中小企業診断士）１名

委員　６名

【評価委員会の意見】

事業計画策定支援について	事業計画書作成に関して、積極的に作成に取組みたい事業者は少ない。職員からの声掛けで計画書の作成を促すが、できる人、できない人、工夫する人、そうでない人など、事業者はハードルが高いと感じているため、計画書の必要性や意識付けをすること。
事業計画策定後の実施支援について	事業計画策定後のフォローアップについて、売上向上等の実績把握を行うこと。
その他	支援の体制整備はできているが、支援先について支援の質と量をみて曖昧さをなくすためデータベース化すること。 また、支援したことにより企業の売上、利益をあげていくことが目的であるため、プロセスより結果が大切である。

平成30年度　豊岡市商工会経営発達支援計画実施評価表

指針別項目	事業等	平成30年度目標		評価
地域の経済動向調査に関すること	経済動向資料の作成・提供	提供1600社 提供10回 活用40社	地域の現状を把握するため商工会の実施する景気動向調査、全国連景気動向調査等の結果を分析しＨＰや会報に掲載する。小規模事業者の経営分析に有効活用し、実現性の高い事業計画の策定により売上や利益向上につなげる。	C
経営状況の分析に関すること	巡回・窓口指導	1,000件	経営実態の把握、及び分析を目的とした巡回・窓口相談を実施し、経営分析に取組むべき小規模事業者の候補先を選定し、取組み事業者の増加を図る。	A
	経営状況分析	40社	小規模事業者の経営状況を分析し、自社の置かれている経営環境や保有する経営資源を正しく把握して、課題解決や新規事業への取組みにつなげる。	A
事業計画策定支援に関すること	経営革新計画策定他	12件	中長期的な観点にたち、経営環境の変化に対応できる自立した小規模事業者を育成し、PDCAを自ら実践できるよう伴走型支援を通して、持続的発展につなげていく。セミナーや研修会を通して伴走型支援により、必要に応じ外部専門家等を活用して事業計画（経営革新・経営改善・事業承継・創業・販路開拓）を策定する。	C
	創業計画策定	10件		A
	販路開拓計画策定	13件		A
	セミナー開催数	7回		A
	研修会開催数	4回		A
事業計画策定後の実施支援に関すること	フォローアップ対象先	35社	小規模事業者が計画した事業に取り組めるよう計画的な支援計画を立て、進捗状況や目標の達成状況を巡回・窓口相談によって把握し、経営の安定化につなげる。	A
需要動向調査に関すること	商工会、外部機関からの情報収集・提供	商工会5回 外部機関5回 提供70社	需要を見据えた事業計画を策定するための情報を収集、分析して小規模事業者に提供し、消費者ニーズにあわせ需要開拓につなげる。	D
新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること	展示会・商談会情報提供	10社	小規模事業者が、自社のターゲットに見合う展示会や商談会に出展し、出展サポートや情報発信の支援を受けることで、新たな取引先を開拓し認知度を向上させる経験を通して、商談成立確立を高めていく。	A
	展示会等出展サポート	8社		A
	プレスリリース指導	8社		A
	商談成立数	5件		C
地域経済の活性化に資する取組	地域産品ＰＲ事業	－	小規模事業者が地域資源を活用して開発した多数存在する地域産品について、「販路開拓につながる」情報を発信する媒体として、ＰＲ用動画を製作する。	－
	にぎわい創出事業	開催数年3回 参加店45社	まちゼミを開催し、「お客様の満足・幸せ」「個店の顧客・売上」「街の発展・活性化」の向上を図り、個店の売上、経営力のアップを図り、地域経済の活性化につなげる。	C
		開催数年2回 参加店44社	まちバルを開催し、新たな顧客開拓、地域の飲食店の活用を促し、街の活性化と飲食店の集客支援を通して、地域経済の活性化につなげる。	B
経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組	他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換	公庫　年1回 よろず　-回	市、日本政策金融公庫、兵庫県よろず支援拠点等と情報交換・共有を密にし、最新情報や支援ノウハウなど小規模事業者の経営に役立つ情報を入手し、新たな需要開拓を進める基盤を構築する。	A
	経営指導員等の資質向上等	随時	ＯＪＴ、ＯＦＦ-ＪＴ、中小企業基盤整備機構等の支援能力向上研修を受講し、経営指導員等の資質向上を図る。定期的に支援会議を開催し、日々の支援や手順など実際の案件を基に討議し、知識習得の場とする。	B

評価指標　Ａ：目標を達成することができた。（100%以上）
Ｂ：目標を概ね達成することができた。（80%～99%）
Ｃ：目標を半分程度しか達成することができなかった。（30%～79%）
Ｄ：目標をほとんど達成することができなかった。（30%未満）